

# 名古屋市立幼稚園の今後のあり方に関する 基本方針（案）に対する市民意見の内容 及び本市教育委員会の考え方

名古屋市立幼稚園の今後のあり方に関する基本方針（案）に対し、  
貴重なご意見をいただきありがとうございました。

いただいたご意見とそれに対する本市教育委員会の考え方を公表し  
ます。

なお、ご意見の内容について、趣旨の類似するものはまとめさせて  
いただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しております  
ので、ご了承ください。

平成 28 年 9 月

名 古 屋 市 教 育 委 員 会  
子ども応援委員会制度担当部学校計画室  
電 話 〇 五 二 （ 九 七 二 ） 三 二 二 六  
FAX 〇 五 二 （ 九 七 二 ） 四 一 七 六  
電子メール a3226@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

## 実施結果

- ア 実施期間 平成28年6月17日（金）～7月19日（火）まで
- イ 配布場所 市民情報センター、区役所情報コーナー、支所 など
- ウ 提出状況 意見提出者数 707人  
意見件数 1,444件
- エ 提出方法 郵送112人 FAX208人 メール138人 持参249人
- オ 意見の内訳

| 項 目             | 意見数    |
|-----------------|--------|
| 基本方針全体に関すること    | 127件   |
| 幼児教育を取り巻く現状と課題  | 7件     |
| 市立幼稚園の現状        | 394件   |
| 市立幼稚園の役割と今後のあり方 | 235件   |
| 市立幼稚園の教育環境の整備   | 681件   |
| 合 計             | 1,444件 |

## 寄せられた主な意見と教育委員会の考え方

### 1 基本方針全体に関すること（127件）

#### 【市民意見】

- 名古屋市の教育が全国的にも質が高いことをアピールできるようにして、子育てするなら名古屋でと言われるようにしてほしい。
- 市立幼稚園だからこそ、担える役割、果たせる役割があり、市立幼稚園が減少してしまうということは、幼児期に“質の高い教育”を受ける機会がなくなってしまうことを意味するのではないか。
- 市立幼稚園の再編は必要だと思うので、きちんと進めていただきたい。
- 園児を増やす努力をしないで、民間移管や統廃合をするという方向にもっていくのは、おかしいと思う。
- 全ての市立幼稚園をなくすのは反対だが、少子化などで閉園というのも仕方のないことだと思う。時代に共存できるあり方を考えてもらいたい。
- 質や内容等、目に見えにくい部分にもしっかりと目を向けて、民間移管や統廃合の検討のみに偏らないように。大局的な視野をもって今後の名古屋市立幼稚園のあり方を今一度、検討していただきたい。
- 保育園、幼稚園にみんなが楽しく通えたら、名古屋への定住率や出産率も上がり、街が潤う。減らすのは簡単だが、つくるのは多大な金と労力があるので、10年、20年、30年先を見て判断をしてほしい。
- 時代に合わせて改革も必要だと思うが、無くしてはいけないもの、残さなければいけないものをしっかり見極めてほしい。
- 幼児数が減少し、市立幼稚園の充足率が減少している現状では、再編はいたしかたないことだと考えるが、ただ数を減らすのではなく、減らすことによって、より質が高く地域と密着した保育ができるとよい。

#### 【教育委員会の考え方】

- ・ 幼児人口の減少や保護者の保育ニーズの多様化などにより、市立幼稚園の利用定員の余剰は今後もますます大きくなるため、対応が必要と考えています。また併せて、市立幼稚園の機能を強化し、本市全体の幼児教育の充実を図るという役割を果たすために、再編を実施するものです。
- ・ 本市の就学前教育・保育の大半を私立幼稚園や保育所等が担っている現状を踏まえ、市立幼稚園としての役割や今後のあり方を明確にしたうえで、私立幼稚園や保育所等と相互に連携・協調することにより、本市全体の幼児教育の充実を図っていく必要があると考えております。

## 2 幼児教育を取り巻く現状と課題（7 件）

### 【市民意見】

- 幼児人口の減少は市立幼稚園だけの問題ではなく、私立幼稚園も同じであり、安易に市立幼稚園を閉園するという考えをとらないでもらいたい。
- 需要減少が見込まれる中での規模縮小等は妥当。ただ、その前に保護者のニーズに合わせて改善をすべきだと思う。

### 【教育委員会の考え方】

- ・私立幼稚園を含め幼稚園全体の園児数が減少し、定員にも余剰が生じていることから、市立幼稚園についても対応が必要であると考えております。あわせて、市立幼稚園の機能強化についても検討してまいります。

## 3 市立幼稚園の現状（394 件）

### （1）市立幼稚園の教育実践

### 【市民意見】

- 市立幼稚園は、弁当、送り迎えが特色であり、アレルギー持ちの子ども親が管理できるメリットがある。また、送り迎えは毎日園の様子がわかり、先生とも密に連絡を取り合え、園と連携して一緒に子どもを育てられる点で優れている。
- 市立幼稚園の教育内容（質の高さ）と授業料のバランスにひかれて子どもを入れた。先生も文部科学省の幼稚園教育要領などを受け、日々勉強しているのがよくわかり、熱心に指導してくれている。
- 遊ぶ時期に思いきり遊び、親と関われる時期に親子で共通の時間を楽しむことができるのは市立幼稚園の良さである。
- 市立幼稚園は、子ども達にとってとても良い環境にあり、充実した園生活を送ることができる。

### 【教育委員会の考え方】

- ・市立幼稚園を選択した理由や市立幼稚園の良さなどについて多くの意見をいただきました。これらの意見を参考にしながら、基本方針に基づいた具体的な取り組みについて検討してまいります。

## (2) 市立幼稚園の園児数の減少

### 【市民意見】

- 3歳児の学級数を増やしてほしい。
- 3歳児は希望者が多く、抽選になっている園も多い。希望者が多い園は3歳児の定員数を上げれば充足率も上がるのではないかな。
- 市立幼稚園は子どもの心をはぐくむ場として希望者を全員受入れてほしい。
- 兄弟在園中の園児がいる場合、兄弟枠などで入園できるようにしてほしい。
- 市立幼稚園は、願書受付や抽選の時期が遅く、入園が決まるまで不安だった。もっと募集時期を早くしてほしい。
- 園児数が減少していることだけに注目せずに、市立幼稚園のメリットをもっと宣伝してほしい。
- ホームページやリーフレット等を活用して、魅力をアピールしたら良いのではないかな。

### 【教育委員会の考え方】

- ・一部の園で定員を超える3歳児の入園申し込みがあり、公正・公平の観点から特別な枠を設定しないで、抽選を行っています。一方で定員に達していない園もあることから、対応が必要であると考えております。3歳児の定員数や学級数については、今後の具体的な取り組みを考える際に検討してまいります。また、募集時期については、私立幼稚園と協議した上で募集時期を設定しております。
- ・リーフレットやホームページをはじめとした広報活動を通して、今後も、市立幼稚園の取り組みや良さを周知するよう努めてまいります。

## 4 市立幼稚園の役割と今後のあり方（235件）

### (1) 質の高い幼児期の教育の実践及び発信

### 【市民意見】

- 質の高い教育とは具体的にどのような教育を目指しているのか。
- 今までの教育実践を大切にして、これからの幼児教育の核となり、子育て支援の役割を担って行ってほしい。
- 市立幼稚園の教育方針を私立幼稚園や保育園等にも発信してほしい。

○遊びの中から自然に学びへ導く教育方針であり、子どもが意欲的に動けるようになって  
いる。どろんこ遊び、水遊び、生き物の世話、植物を育てて収穫するなど自宅ではでき  
ない体験をしているので、もっと知ってもらいたい。

【教育委員会の考え方】

- ・質の高い教育とは、教員が豊かな環境を工夫し、幼児は遊びを中心とした主体的な活動を通して、小学校以降の生活や学習の基盤を培う教育です。また、地域との連携や特別支援教育など今日的な課題を踏まえた教育の実践も行う必要があると考えております。
- ・幼児期は、様々な体験を通して生涯にわたる人間形成の基礎を培う、きわめて重要な時期です。引き続き、私立幼稚園や保育所等との連携を進めながら、全市的な幼児教育の質の向上に努めてまいります。

## (2) 幼保小接続の取り組みの推進

【市民意見】

○幼小接続については、普段から小学校との交流があるので、在園児は小学校へ上がる事への関心が高まって、良い影響がある。

○小学校との交流をよくしているので、小学校の先生との連携があり、一年生になった時に、不安が少なく、小学校に上がることができるところがよい。

【教育委員会の考え方】

- ・幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続は大切であり、幼小接続の実践研究を推進し、得られた成果を私立幼稚園や保育所等に広げていく先導的な役割を担うことが必要であると考えております。

## (3) 幼児期における特別支援教育の充実

【市民意見】

○インクルーシブ教育システムの実践研究も進め、だれもが輝ける教育システムにしてほしい。

○特別支援教育の充実について、幼児期こそ必要であり、期待している。

○特別支援教育の充実とあるが、具体的にそのための人材育成、人員の増員、設備の見直し、親への理解、様々な方向からの支援、施策がないと難しいと思う。

【教育委員会の考え方】

- ・ 幼児期における特別支援教育の充実を図ることは重要であり、インクルーシブ教育の実践や通級指導教室の設置を検討してまいります。

#### （４）家庭や地域コミュニティと連携した園運営の推進

【市民意見】

- 市立幼稚園ならではの地域とのかかわり、子育て支援をこれからも続けてもらいたい。
- 地域に根ざした幼児教育の重要性にも着目してほしい。

【教育委員会の考え方】

- ・ 市立幼稚園では、地域の子育て家庭に対し、未就園児の親子で遊ぶ会や子育て相談などの子育て支援を行っており、家庭や地域コミュニティと連携した園運営に努めてまいります。

#### （５）多様な保護者ニーズへの対応

【市民意見】

- 預かり保育について、早朝や長期休暇中の預かりが拡充されたらいいと思う。
- 仕事をしているため預かり保育を利用しており、夏休み中等とても助かっている。
- 今、市立幼稚園で行っている預かり保育の制度を更に良くして、もっと前面に押し出せば、市立幼稚園に預けたいと思う人も増えると思う。
- 保育時間を延長してほしい。３時以降、ゆっくり気温が下がっていく頃にお迎えという形が理想の形である。
- 共働き家庭が昔より増えているので、市立小学校と同様に給食にすると市立幼稚園に入りたいという親は増えると思う。
- 毎日のお弁当が理由で公立を選択されない方がいるならば、週１～２回給食にすればよいと思う。
- 幼稚園まで遠く、連れて行くのが辛いので、通園バスがほしい。

【教育委員会の考え方】

- ・市立幼稚園では、現在、預かり保育を全園で実施しており、時間や日数の拡充につきましては、保護者のニーズに対応できるよう、検討していく必要があると考えております。
- ・「幼稚園教育要領」には、幼稚園の1日の教育時間は、4時間を標準とするとあり、教育時間の延長には慎重であるべきと考えております。
- ・保護者の負担軽減や就園機会の確保の観点から、給食の実施や通園バスの運行についても検討していく必要があると考えております。

## （6）幼児教育センター（仮称）の開設

【市民意見】

- 幼児教育センターはぜひ実現してもらいたい。また、一般の親子や相談したいと思った人が気軽に立ち寄れるような施設にしてもらいたい。
- 幼児教育センターの設置は大変望ましい。設置意義や高い次元での役割をもったセンターとなっているが、“その成果を広く提供する”機能は非常に難しいと感じた。
- 幼児教育センターの研究・研修の質、発進力を高めるためには、市立幼稚園のすぐれた実践力が必要。実践の場が今以上に縮小されては豊かな発想・活発な意見交換が難しくなる。

【教育委員会の考え方】

- ・「幼児教育センター」（仮称）では、幼児教育に関する諸課題について市立幼稚園の教育実践に基づいて調査研究を行い、その結果を私立幼稚園や保育所等へ広く発信することにより、本市全体の幼児教育の質の向上を目指すことを考えております。

## 5 市立幼稚園の教育環境の整備（681件）

### （1）市立幼稚園の再編等の考え方

【市民意見】

- 市立幼稚園をこれ以上減らしてほしくない。市立幼稚園の良さをこれからも残してほしい。
- 公立には必要とされている理由がある。園児数が減っているからといって、安易に統廃合や民間移管はやめてほしい。



- 再編や民間移管については、在園児に大きな影響を及ぼすため、慎重に判断してほしい。
- 園数が減りすぎると基本方針（案）にあるような役割を果たすことは困難。残った園がきちんと機能できるようしっかり考えるべき。
- 市立幼稚園の良い所は、質の高い教育が受けられる、一人一人の成長段階にあわせた教育をしてくれる、園が開放的で親同士の交流が多く、子どもの様子がよくわかる点である。一園でも多く存続させてほしい。
- 定員に満たない幼稚園を再編するというのはよいと思うが、定員に満たなくてもある範囲に一定数は必要なのではないか。
- 子どもが多い区で市立幼稚園の数を減らすことは避けてほしい。地域の人口増加率をふまえて園数の増減を検討すべき。
- 公立の良さを活かすには、むしろ今以上に園数を増やして少人数制にして欲しい。
- 市立幼稚園と私立幼稚園では選ぶ基準も立場も違うので、私立幼稚園があれば市立幼稚園をなくしても良いと言う事にはならない。
- 転勤者には市立幼稚園は大切な受け皿になっていることを理解してほしい。
- 望ましい集団規模というのは何を基準にしているのかわからないが、私は少人数教育だと思う。
- 入園時に抽選があり人数に制限があった。学年によっては受け入れ可能な状況だが、それが「望ましい集団規模を確保しにくい状況」とはいえないのではないかと。望ましい集団規模とは定員数を満たしている状態のことなのか。
- 複数学級運営が望ましいとあるが、一概に人数が多ければいいものではない。少人数だからこそ異年齢の子との交流が図れる。

【教育委員会の考え方】

- ・ 幼児人口の減少や保護者の保育ニーズの多様化などにより、市立幼稚園の利用定員の余剰は今後もますます大きくなるため、対応が必要と考えています。また併せて、市立幼稚園の機能を強化し、本市全体の幼児教育の充実を図るという役割を果たすために、再編を実施するものです。
- ・ 私立幼稚園も市立幼稚園と同様に、幼稚園教育要領に基づく幼児教育が提供されており、さらに、それぞれの建学の精神と理念のもとに幼稚園教育が提供されており、そのことが教育内容の特徴として現れ、保護者の多様なニーズに応えるものとなっていると考えております。

- ・幼稚園においては、集団生活の中で人間関係づくりの第一歩を学ぶことが重要な目標であり、幼児たちは多人数の集団の中で互いに切磋琢磨しながら、たくましく伸びていきます。はじめは2～3人のグループを形成し、年齢と共に形成するグループの人数が増えていきます。4、5歳児では5～6人のグループを形成するようになります。幼児の育ちを考えたときに、このようなグループが少なくとも3～4グループ程度でいることが必要と考えています。

## (2) 職員体制の充実

### 【市民意見】

- 一人一人の子どもをしっかり見ていけるように先生の配置をしてほしい。
- いつも先生方は人が足らずに大変そうだったので、市が人員派遣しやすいようにしたり、必要なタイミングでパートを雇えるような制度があった方がいいのではないか。
- 園数が減ることで、先生方の数も減ってしまうのではないかと心配である。

### 【教育委員会の考え方】

- ・望ましい職員体制や研修の充実などについては、今後の具体的な取り組みを考える際に検討してまいります。

## (3) 幼稚園施設の整備

### 【市民意見】

- 施設の老朽化対策をぜひしてもらいたい。
- 小中学校にエアコンが設置されたが、幼稚園にも設置してほしい。
- 教育内容に不満はないが、園舎の老朽化、エアコンがないことでの体調不良になる事が気になる。
- 駐車場がないので車でしか通うことができない人のために駐車場を設けるなど、今の幼稚園をよくする方向で考えることはできないのか。

#### 【教育委員会の考え方】

- 幼稚園の老朽化対策としましては、内外装・屋上防水を一体的に改修する大規模改造を実施しております。現在は、幼稚園を含めた学校施設全てを対象として中長期的な老朽化対策の方針を検討しており、今後も計画的に進めていきたいと考えております。
- 学校施設の冷房設備については、生徒・児童が学校に滞在する時間など学習環境における諸条件を勘案し、整備をすすめているところです。幼稚園については、長時間保育となる預かり保育で使用する保育室や遊戯室に冷房設備の整備を行なったところです。保育室全体への冷房設備の整備については、「名古屋市立幼稚園の今後のあり方に関する基本方針」も踏まえ、検討してまいります。
- 市立幼稚園では、園庭や園舎等の教育環境を限られた敷地内で整備しており、送迎のための駐車スペースの確保については、諸条件を勘案しながら、検討していくことが必要と考えております。

#### （４）授業料の公私間格差

##### 【市民意見】

- 市立幼稚園が安い授業料で質の高い教育を行っているのはありがたい。
- 授業料の公私間格差について、私立幼稚園とは保育内容や施設、環境などが違うため、比較対象とはならないと思う。
- 予算が問題であるなら、一定の所得以上の人の授業料引き上げなど別の切り口からの改善を考えられないか。
- 就園奨励で保育料補助があっても、私立幼稚園は入園料、制服代、施設費など負担が重い。経済的余裕のない家庭、転勤等の途中入園者にとっても費用が安い市立幼稚園は必要である。
- 幼児保育を年収に関係なく無料化もしくは一律料金化できないか。
- 市立幼稚園のメリットは授業料の安さだと思う。貧困家庭やひとり親家庭も多い昨今、私立幼稚園に通わせることが難しい家庭には、ありがたい場所であり、これからもそうであってほしい。

【教育委員会の考え方】

- 国の子ども・子育て支援新制度では、公立幼稚園の授業料として、世帯の所得などに応じた額をご負担いただく仕組みとなっています。本市でも、国の定める負担額の基準を踏まえて、市立幼稚園の授業料額を定めております。

なお、現在国において幼児教育の無償化についての検討が進められており、本市も国の方針に沿って対応を検討すべきと考えております。

- 本市の幼稚園児の9割以上が私立幼稚園に在園している状況を踏まえますと、幼児教育を必要とする市民全体に対して就園機会を保障する観点からは、公私間における保護者負担の格差の是正について検討する必要があると考えております。
- 私立幼稚園については、所得状況に応じた授業料の補助を行うことで、市立幼稚園と同様に、所得や兄弟の人数によっては実質的な負担が無償となっております。また、市立・私立幼稚園ともに、平成28年度から一定の所得以下のひとり親世帯等において、一層の負担軽減をはかっております。